

公の施設目標管理シート（直営）

問合せ先 025-269-3154

年度	令和6年度		
施設名	新潟市立坂井輪児童館	所管部・課	西区健康福祉課
施設の設置目的	児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、及びその情報をゆたかにすることを目的として設置する。		

当初予算(千円)		当初人員(人)		作成日	2024. 7. 14
歳入	2,130	正職員	1	修正日	
歳出	2,990	会計年度任用職員	4	評価日	2025. 7. 25

No.	視点	目標	評価指標					参考・補足	主な事業等	目標達成状況 未達成理由	評価	
			項目	R3実績	R4実績	R5実績	R6目標					R6結果
1	市民	より多くの児童に遊びの場を提供する。	利用者数	3,808人	4,468人	5,701人	600人	1,202人	日常の児童館活動が実施できないので、目標数が低くなっている。	児童館イベント、年間予定行事一覧表他配布	出張日数を増加してきたことにより、定期的な実施が認知され定着してきたと考えられる。	B:達成
2	市民	多方面から関心と興味、参加意欲を持ってもらう。	広報	館だより月1回 区だより月1回 その他随時	館だより月1回 区だより月2回 その他随時	館だより月1回 区だより月2回 その他随時	館だより月1回 区だより月2回 その他随時	館だより月1回 区だより月2回 その他随時	イベント前はポスターを掲示したり、ホームページ、子育て応援アプリ等に内容を掲載したりする。	・館だより ・区だより ・イベント前チラシ配布	計画してきた広報は確実に実施することができた。	B:達成
3	市民	利用者の満足度を高める。	苦情・要望への対応	アンケート回答 「良かった」以上 が100%	アンケート回答 「良かった」以上 がほぼ100%	アンケート回答 「良かった」以上 がほぼ100%	アンケートによる 肯定的評価が 90%以上	アンケートによる 肯定的評価が 90%以上		・講座参加者へのアンケートを実施	イベント実施後のアンケート結果を講師にフィードバックしたり、内容を見直したりすることに活用した。	B:達成
4	業務	子育ての楽しさを啓発する。	子育て支援	80回	103回	50回	50回	58回	幼児の利用年齢が低年齢化し、乳児の割合が増えた。出張型のわくわくTIMEを行う。	・子育て講座・音楽遊び・タッチファースト等講師による行事 ・身体測定・わくわくTIME	乳幼児とその保護者の居場所として、わくわくTIMEが認知されてきたので、回数を増加し、利用者に喜ばれた。	B:達成
5	業務	心身ともに健全な成長を促進する。	年長児童向け事業	19回	32回	30回	30回	40回		ファミリーコンサート・ハンドメイド教室・運動教室・夏休み工作教室・チャレンジ工作(出張さかいわじどうかん)	放課後の小学生の居場所として、出張さかいわじどうかんの回数を増加した。来館者はわずかに増加した。	B:達成
6	業務	災害時、利用者の安全を確保する	避難訓練の実施	2回	2回	2回	2回	2回		・地震避難訓練 ・消火訓練 ・通報訓練 等	避難誘導の方法検討や消防署への通報訓練を実施した。施設が使えないので、来館者は訓練に参加していない。	B:達成
7	人材	様々な利用者の要望に応える。	職員研修の実施	3回	1回	2回	2回	2回		・児童館合同研修・施設見学 ・関係機関開催の研修会	職員の資質向上に向け、研修会に参加した。	B:達成
8	人材	子どもの命を守るアドバイスができるように努める。	乳幼児の安全講習	0回	1回	1回	1回	1回		・乳幼児に起こりやすい事故やケガの応急処置、AED使用法についての講座	西消防署ひまわり隊の方から、応急処置等について講習を受けた。保護者とともに職員の学びにもなった。	B:達成
9												
10												

取り組みについて(目標設定の考え方など)	総合評価 (評価を踏まえた課題分析・方向性など)
<p>当施設は児童福祉法の規定に基づいて設置された児童館であると共に、地域子育て支援拠点事業を実施している施設でもある。そのため、「子育て親子の交流の場の提供と交流の促進」「子育て等に関する相談・援助の実施」「地域の子育て関連情報の提供」「子育て及び子育て支援に関する講習等の実施」の四つの基本事業を柱に年間の運営計画を立て、取り組んでいる。</p> <p>現状で、令和6年1月の地震により児童館は休館中となっている。そのため、他の施設を活用した出張型の活動でイベントなどを実施し、地域における子どもたちの居場所や親子の交流の場となるように取り組んでいく。また、改修工事完了後は、館内で安心・安全な遊びの場が提供できるよう準備をすすめていく。</p>	<p>震災の影響により、児童館が休館していたため、他の施設を使用して出張型により各種事業を実施。予定していた事業は計画通り実施することができた。参加者の肯定的評価も多く、充実した活動を展開することができた。</p> <p>日常の居場所として、乳幼児対象のわくわくTIME、3歳から小学生を対象とした「出張さかいわじどうかん」を実施。両事業について徐々に回数を増やしてきたこと、複数回参加する方が増えてきた。定期的に、同じ場所で実施してきたことが認知され、参加回数増につながったと考えられる。</p> <p>児童館が使用できない期間中に、地域の方から再開を望む声を多数いただいた。地域の中の居場所として求められており、居場所としての役割を担うために、拠点としての機能を整え、いつでも自由に、気軽に利用できる施設であることが大切であると考え。</p>